

組立鉄筋ユニットを用いた住宅用基礎の設計・施工指針に関する技術開発

背景

2014~2016年度に配管のためのスリーブ補強ユニット、人通口のための着脱可能な点検補強システムを開発、2017~2018年度に住宅基礎の接合部（出隅・入隅等）の配筋システムを開発した。本技術開発では、これらの成果、および蓄積された技術的な問題点・改善点を踏まえた設計・施工指針を整備する。

目的

組立鉄筋ユニットを用いた住宅用基礎の基本となる、新しい設計・施工指針骨子の作成。

組立鉄筋ユニットを用いた住宅用基礎

- ・ 技術的レベルの確保
- ・ 基礎全体の品質向上
- ・ 施工精度の均一化

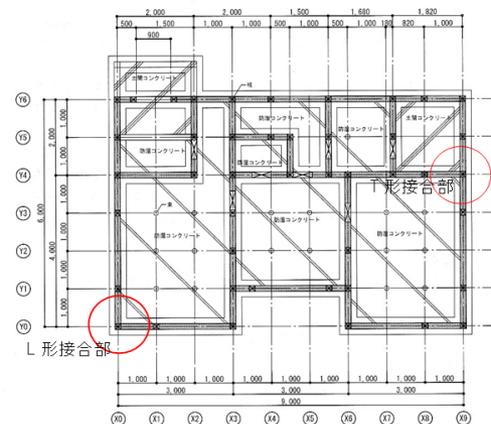
実施体制

| | |
|-----------------|------|
| （一社）日本住宅基礎鉄筋工業会 | 佐藤収一 |
| 東京理科大学・名誉教授 | 松崎育弘 |
| 千葉工業大学・教授 | 中野克彦 |
| 福井大学・教授 | 磯雅人 |
| （株）堀江建築工学研究所 | 迫田丈志 |

技術開発の概要

2014~2016年度に開発したスリーブ補強ユニット，人通口補強システム，2017~2018年度に開発したT形・L形接合部の配筋システムを組込んだ，組立鉄筋ユニットを用いたシングル配筋RC基礎の設計・施工指針骨子を作成する。

開発時に得られた実験結果の分析，実施工時における問題点の調査・分析を行い，設計・施工指針の条項に加えるとともに技術資料を添付する。



生産性向上の効果

- ・ 施工品質の確保および施工時間の削減
- ・ 製品単価の削減
補強金物の種類，流通方法を一元化することにより製品単価を削減できる。
- ・ 過剰設計・過密配筋の削減
配筋システム等を設計法に取り込むことにより設計応力が明確になり，過剰設計・過密配筋が削減できる。